

初の貨物便飛来、26日から商用運航

■豪ウエスタンシドニー空港、10月供用開始へ

豪州ニューサウスウェールズ州西部で供用開始を控えるウエスタンシドニー国際空港（ナンシー・バード・ウォルトン空港、WSI）で13日、貨物便の試験運航が始まった。初便として同日午後、カンタス航空（QFA）のA321F型機が飛来した。7月26日の商業貨物便の運航開始に向け、今後2週間にわたり追加の試験運航を行う。空港全体の供用開始日は10月25日で、これに先立って貨物便の商業運航を開始する。豪州では、新規開発の国際空港は50年以上ぶり。

供用開始後は、まずQFAとジェットスター航空（JST）が国内旅客便を運航する。11月23日からはシンガポール航空（SIA）による国際旅客便の乗り入れも始まる。SIAはA350-900型機を投入し、シンガポール線をデイリー運航する。

WSIは、西シドニーのバジェリーズ・クリークに建設された24時間運用の新空港。2018年に着工し、旅客ターミナルや滑走路などの主要工事は25年6月までに完了。その後は空港全体で設備や運用手順の試験を進めてきた。

空港は全長3700メートルの滑走路1本と旅客ターミナル、貨物地区で構成する。滑走路はA350-1000型機やB777X型機などの大型機に対応する。

24時間稼働の貨物ハブへ

WSIのサイモン・ヒッキー最高経営責任者（CEO）は、今回の試験運航について、24時間稼働の貨物ハブ開設に向けた運用準備プログラムの最終



ウエスタンシドニー国際空港に初飛来した、カンタス航空のA321F型機

段階に当たると説明した。今後2週間にわたり、実際の貨物便運航に近い環境で、システムやインフラ、職員の対応を検証する。

貨物地区では、カンタス・フレイト、メンジーズ・アビエーション、dnataカーゴ、貨物航空会社のテクセルエア（XLR）がサービスを提供する。

カンタス・フレイトは2024年9月、同空港の貨物地区を利用する最初の貨物航空会社に決まった。XLRは、B737-800BCF型機による貨物チャーター便を同空港発着で運航する。

第1期施設の貨物取扱能力は年間少なくとも22万トン。稼働により、シドニー地域の航空貨物処理能力を約

33%増強するとしている。貨物地区への専用道路アクセスを設け、近隣のケンプスクリークや空港周辺の開発区域「エアロトロポリス」にある貨物・物流拠点にも近接する。将来の需要増に応じて施設を大幅に拡張できる設計としている。

カンタス・フレイトのイゴール・クフィアトコフスキ・エグゼクティブマネジャーは、24時間稼働により貨物ネットワークの柔軟性が高まり、eコマース（EC）や翌日配送の需要増への対応力が向上すると説明した。シドニー地域の航空貨物処理能力が拡大し、国内外への緊急性の高い貨物の輸送にも寄与するとの見方を示した。